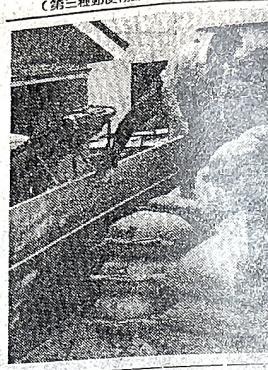
読売、秋田
（第三種郵便物認可）　昭和57年（1982年）9月25日（土曜日）

NO.6

愛の秋田米140俵出発

ソマリア救援運動の結晶

日本ユニセフ協会「秋田友の会」（佐々木正光代表）が呼びかけた"愛の一粒運動"で、県内の小、中学校や公民館などから集まった米が、アフリカ・ソマリア民主共和国へ、現地の人たちに味わってもらえるよう送られる難民救援米約八・四トンが二十一、二十四日、西仙北町から横浜港へ向けてトラックで運び出された。十一月初めには、おいしい秋田米を現地の人たちに味わってもらえるよう



日本ユニセフ協会「秋田友の会」（佐々木正光代表）が呼びかけた"愛の一粒運動"で、県内の小、中学校や公民館などから集まった米が、アフリカ・ソマリア民主共和国へ、現地の人たちに味わってもらえるよう送られる難民救援米約八・四トンが二十一、二十四日、西仙北町から横浜港へ向けてトラックで運び出された。十一月初めには、おいしい秋田米を現地の人たちに味わってもらえるようだという。

救援の輸送や手続きなどで、食糧不足に悩むソマリアの人たちに、「毎日の食糧に並ぶ一食を」と始められたこの運動で、秋田市、大曲市や仙北郡、由利郡内の町村から寄せられた秋田米は百四十俵（六十キロ入り）にのぼり、協力者は四、五万人にもなった。

"愛の秋田米"は、仮保管中の西仙北町・刈和野農協倉庫から、佐々木代表らの手で大型トラックに積み込まれ、午後二時すぎ、一路横浜へ。船積みされるのは、来月二十日ごろの予定で、順調に行くと十一月初めには現地へ到着、白い秋田米が人々の手にわたる手はずになっているという。

積み込み作業に汗を流した後、佐々木さんは「みなさんの協力で、運動は大成功でした。同じ人間として、これからも何かの形でお手伝いを続けたい」と語っていた。

ソマリアへ送るためトラックに積み込まれる愛の秋田米

9/25 さつびか新聞

米の積み出し始まる

愛の一粒運動　11月には難民の元へ

飢えに苦しむアフリカ・ソマリア共和国の難民に米を贈ろうと行われた「愛の一粒運動」で集まった米の積み出しが二十四日、仙北郡西仙北町の刈和野農協倉庫で行われた。集まった米は最終的に八・四トン。計画では十一月初めには難民に届けられることになっている。

この運動を行ったのは、日本ユニセフ協会「秋田友の会」＝代表・佐々木正光さん（三三）＝と、西仙北町刈和野二五＝の会員十四人。会員が飢えに苦しむソマリア難民の惨状を伝えた新聞や、写真集を見て、自分たちでなにか援助できないものかと相談の結果、身近にある米を贈ることになった。

今月一日から一週間、会員たちのいる秋田市や大曲市、西仙北町、横手市、ほか七市町村の小、中学校や公民館に段ボール箱やポリバケツを置き、児童や住民らに協力を呼びかけて米を持ち寄ってもらった。

こうして集まった米は最終的には合計八・四トン、約百四十俵にもなった。秋田市が四・二トンと一番多く、次が大曲市。米は会員たちが米袋に一俵（六〇キロ）ずつ詰め替え、刈和野農協の協力で同倉庫に保管されていたが、二十四日会員四人によって、運動に共鳴した大曲市の運送業者の大型トラックにと積み込まれた。

佐々木会長は「多くの人の善意と協力で運動が大きな進展をみせた。心から感謝する」との言葉を残し、もう二人の会員とともに保管手続きなどのため横浜港へとトラックに乗り込んだ。

米は来月二十日ごろに日本郵船の貨物船でソマリアへ輸送、十一月初めには国連のWFP（世界食糧計画）の手で難民キャンプに運ばれる。

横浜港に運び出される善意の米

52.10.2 日本新聞

編集手帳

ユニセフ協会秋田「ソマリアの子供たちに」、と日本[illegible]呼び[illegible]週間[illegible]日[illegible]俵もの「愛の一粒運動」に、県内[illegible]集まった佐々木正光さん（秋田・西仙北町）に言わせると計画を立てから三年はかかっている。新聞の報道や写真集を見て「何とかしてあげたい」と思っても、十四人の会員にはそれぞれ仕事がある。どんな方法で訴えるのが効果的なのか、集めた米の運送はどうするか。何もかも初めてのことばかりだった◆輸出には食糧庁の許可が要るし、倉庫の確保も必要だ。ようやくそれらが解決してからは、三百枚のポスターを作ったり各教委に協力を求めたり……。「あなたの一食分を下さい」と実際に"米集め"が始まったのが先月二日。だが、反響は大きかった◆佐々木さんには満一歳になる長女の「愛」ちゃんがある。娘の名にちなんでつけた「愛の一粒運動」に、県内各地から四万人以上の子供たちや父兄が参加してくれたという。今月中旬には横浜港から日本郵船の好意で船積みされ、約三週間後には現地の難民の手に届く◆アメリカでは、日系米人の若者たちがニューヨークの国連本部前で、三日前からハンストに入ったという記事があった。各国代表に世界各地で飢えに苦しんでいる子供たちの実情をわかってもらわないという趣旨だ。[illegible]が語っていた[illegible]◆佐々木さんに電話をかけてみたら「愛ちゃんの成長とともに『一粒運動』は続く、どそんなニュアンスがこもっていた。